

## ハナミズキ

2024. 5. 2

毎年、春になると、道路の両側にきれいな花が咲く。それは、赤だったり白だったりする。決して大きな木ではない。もう何年も前になるが、その花のことが気になり、あるとき、家人に聞いたことがある。「あの花は何て言うの?」「ハナミズキ」ああ、これがあのハナミズキか。そのとき、あの名曲のフレーズが出てきたのは言うまでもない。一青窈のハナミズキである。

このくらい、花というものを知らない。だが、気になる花に出合うことがある。ハナミズキもその一つである。街路樹として、よく使われるらしい。白なら白、赤なら赤というわけではなく、白だったり、ピンクだったり、薄いピンクだったりと混在している。それがまたいい。どうしてそうなるのか。品種によるらしい。

気になって調べてみた。どうも日本原産の花ではないような気はしていた。やはりそうだった。明治時代末期の1912年に、当時の東京市長であった尾崎行雄がアメリカ合衆国ワシントンDCへさくら(ソメイソシノ)を贈った。その際、大正時代初期の1915年に、その返礼としてワシントン市から東京市に贈呈されたのが始まりである。贈られたハナミズキは、全部で60本で、そのうち白花の苗木が40本、ピンク色の苗木が20本だった。それらは、日比谷公園や小石川植物園などに植えられた。

たったの60本から始まり、私の新しい通勤路でも目にすることができるようになるのだから植物のパワーはすごい。春になると、梅、桜、桃、梨、りんご、そしてハナミズキと続く。今年は、今まで以上に、花に目がいくようになった。それだけ、心に余裕があるのだろうか。

新たな通勤路では、山の方に目をやると、吾妻小富士の雪うさぎと目が合うことに気がついた。何日間かは、毎朝、雪うさぎと見つめ合うことができた。ちょうど、角度がいいのである。まるで、こちらを見つめているようなのである。これは、新たな発見だった。

ハナミズキというと、どうしてもあの曲が出てきてしまう。歌詞に「果てない夢がちゃんと終わりますように」というフレーズがある。「叶う」ではなく「終わる」なのである。この曲は、2001年に発生したアメリカ同時多発テロ事件にショックを受け、歌詞に感情をぶつけたものだという。わずか20分でできたそうである。溢れる思いを表現するときは、そうなるのであろう。

これからも、毎年、ハナミズキのきれいな花を楽しみにしたい。この花は、秋の紅葉も見事である。ハナミズキは、私にとって特別な存在になりつつある。